※この科目では対面授業を実施予定です。受講申込の際は「対面授業スケジュール」にて日程をご確認ください

授業科目名： **ファイナンス（石川）**

科目区分： 金融・財務（コア）

必修・選択の別： 必修

配当年次： 1・2 年次

単位数： 2 単位（学習期間 1 学期）

担当教員： 石川 秀樹

オフィスアワー（授業相談の受付）：

e ラーニングサイトおよびメールでの質疑応答を受け付けています。

（メールアドレスは大学院グループウェアのアドレス帳でご確認ください）

1. 授業の概要

ファイナンスとは、単に必要な資金を調達するということではなく、企業の支配権を誰が持つか、株主や債権者といったステークホルダーの期待にいかに応えていくのかという問題である。ファイナンスのキーワードは株主や債権者との共通言語といっても過言ではない。したがって、財務担当者に任せれば良いというものではなく、経営トップを含む全ての経営幹部にとって必須の知識である。

最終回（第 15 回）では M&A ゲームを行う。ここでは、売り手と買い手に別れて、企業を売るべきか、買うべきか、の真剣勝負を行う。第 14 回までの講義は、この真剣勝負に必要なファイナンスの理解と人的なネットワークを創ることといってもよい。そのことを意識して、第 1 回より積極的に取り組んでいただきたい。

2. 学習目標

- 1) 投資プロジェクトがどれだけの収益率をあげればよいか、その計算方法を知っており、自分でエクセルを使って計算できる。
- 2) DCF 法、類似比較法、純資産法の 3 つのアプローチからなる企業価値評価の資料を理解し、経営トップに説明できる。

3. 授業計画

第 1 章 ファイナンスの重要性・講義概要

ファイナンスとは何か、どのような経営課題と関係するのか、および、自分の現在及び将来の仕事とファイナンスとの関連を理解した上で、ファイナンスの講義により何を徳たいかを明らかにする。

第 2 章 投資の判断

投資の収益率を計算する方法である、資金回収期間法、NPV 法、内部収益率法を学び、その 3 手法の長所と短所を知り、適切な使い分け、および、エクセルを使った 3 手法の計算ができるようにする。

第 3 章 リスクとリターン

ファイナンスにおけるリスクの概念、および、ポートフォリオによるリスク軽減効果について学んだ上で、リスクとリターンの関係の理論である CAPM 理論、ATP 理論を理解する。これらの機関投資家の視点を理解した上で経営者が考慮すべき点を理解する。

第 4 章 企業価値評価（1）

ファイナンスにおける企業価値とは何かを理解するとともに、企業のハードルレートである WACC を理解し計算する。

第 5 章 企業価値評価（2）

企業価値の計算方法である市場価値法、純資産法、類似企業比較法、DCF 法の 4 つを理解し、DCF 法より、企業価値を増やすにはどうしたらよいかを理解する。

第 6 章 企業価値と資本構成

エクイティーファイナンス、デッドファイナンスの違い、自己資本、負債の資本構成の違いによって企業価値が異なるのかどうか、

自己資本、負債の資本構成の違いによって、株主期待収益率がどのように変わるのか、を学ぶ。そして、自社の資本構成はどうあるべきかを、業界や企業の特性を考慮しつつ考える。

第7章 資金調達の方法

株式、債券、銀行借入れなど多様な資金調達の方法について、長所と短所を理解する。

第8章 債券

債券の理論価格の求め方、利回りの計算、格付けの意味など、債券に関する基礎知識を学ぶ。その上で、債券価格がどのような要因で変動するのか、金利がいかんして決まるのか、長期金利と短期金利の関係を理解する。以上を通じて、長期借入と短期借入について適切な判断ができるようになるのが目的である。

第9章 株式

株式投資の際に用いられる PER、PBR、チャート分析やドルコスト法を理解する。また、企業の利益をいかに株主に還元するかという利益還元政策の基本知識を理解する。以上を通じて、株式に関する俗説・通説を吟味する能力をつけると共に、株式市場参加者の思考パターンを理解する。

第10章 デリバティブ、予想レンジ

デリバティブの基本型である、先物、スワップ、オプションの仕組みを理解した上で、デリバティブのリスクヘッジ機能と投機機能を学ぶ。また、標準偏差を使って、経営計画の前提となる為替レートや株価の変動幅（レンジ）を予測する方法を学ぶ。

第11章 外国為替管理、合併・買収・ガバナンス

外国為替変動リスク回避方法としての先物のディスカウント・プレミアムについて理解する。また、実際の M&A のプレゼンテーションから、投資家を説得するのに必要な要素を批判的に学ぶ。

第12章 財務計画

財務計画の必要性を理解し、財務計画を作成し、おおまかな資金計画表を作成できるようにするとともに、財務計画を策定の際に、資金提供者である債権者や株主の視点で検証できるようにする。

第13章 ベンチャーファイナンス

ベンチャー企業の資金調達の方法とその特徴を理解するとともに、ベンチャー企業の一般的な資金過不足のパターンを理解する。また、資金提供可能性は、借り手の状況だけでなく、貸し手の状況によっても大きく変わるということを過去の事例から学ぶ。

第14章 まとめ

企業買収のケーススタディーを通じて、企業評価のプロセスを追体験することによって、企業評価の勘所をつかむ。

第15章 【M&A ゲーム】

売り手と買い手の2チームに分かれて、交渉を行います。今までの授業で得たファイナンスの知識だけでなく、事業ビジョン、相手との信頼関係など、総合的な能力が問われます。

4. 受講上の留意点

- ・エクセルの基本的操作ができることを前提に講義を進めます。
- ・文系出身者が多いことを考慮し、統計や数学の基礎知識は説明します。
- ・各回のコメントは、特段の指示がない限りは、自分が所属する組織、あるいはこれから起業を考えている組織の経営者であるという前提で、当事者意識を持って考え回答することが必要です。
- ・仕事を振り返り改善につなげようという意欲が必要です。
- ・授業で知り得たビジネス情報・個人情報に関しては、守秘義務を負います。
- ・掲示板などを通じて、自分の経験や考えを他の学生と共有することが期待されます。

5. 成績評価基準

毎回の確認テスト（70%） + M&A ゲームにおけるチーム内相互評価（30%）

※この科目では対面授業を実施予定です。受講申込の際は「対面授業スケジュール」にて日程をご確認ください

確認テストは、課題の要求を全て満たせば 80 点、加点事項 10 点、残り 10 点はディスカッションへの貢献度で判断。

6. 必読書籍

特にありません

7. 参考書籍

石野雄一「増補改訂版道具としてのファイナンス」日本実業出版、2022 年

磯崎哲也「起業のファイナンス増補改訂版」日本実業出版社、2015 年

8. その他

特にありません